

コミュニティ中野小屋通信

第5号

2009年1月21日

発行所

コミュニティ中野小屋
編集 真嶋、牧、高木

あけましておめでとー
うーざいます

中野小屋地区の皆様にかかれましては、穏やかな新年をお迎えの事と思います。コミ協広報部も気持ちも新たに、地域の出来事や予定、お願いなどをお届けして参ります。不慣れでドロクサイ紙面づくりになるかもしれませんが、お読みいただけてご感想などをお寄せいただければ幸甚です。

平成二一年の第一報は昨年末の地域内のうごきから



平成20年度歳末警戒を実施

世界同時不況が多くの日から二七日までの一週人々から仕事を、住む所間に亘り実施されましを奪い、経済的理由からた。コミ協広報部は最終いたましい事件が報道さ日の二二日二七日実施本れ、今後の社会不安、治部に同行取材しました。安の悪化がこれ以上深刻この活動の中核を担って化しないよう祈るばかりいるのは西方面隊中野小です。この様な状況下に屋分団第一班から第一五於いて平成二〇年度歳末班までの隊員二二五名の警戒が行政、自治連、防協力なくしては実施不可火連、防犯協会、西警中能と言つても過言ではあ野小屋駐在、交通安協、りません。実施本部は一西消防署及び中野小屋分二月二七日午後七時最終団が連携し、二二日二日の出発式の後、二班に



歳末警戒に出発する
実施本部の方々



激励と謝意を述べ
更なる警戒を要請

ときは、ただありがたうことでした。年の瀬を控
と思わずにはいられませえ、家庭の用事もあるだ
んでした。幸いにも期間ろうし、寒いこの時期は
中の事件、事故、火災な暖かい部屋で家族との団
どの発生はなかったとのらんを求めたくなるもの
ですが、それぞれの立場
で責任感と使命感を持っ
て活動されている各位に
感謝の気持ちでいっぱい
の同行取材でした。

中野小屋地区「各種団体責任者 の集い」開催

行政、教育、経済産業、環境、防災防火、健康福祉、生活安全など、日常の生活に密着している地区内の三三の団体の責任者が一堂に会した「各種団体責任者の集い」が二月一日(月)中野小屋連絡所二階ホールで開催されました。集いは、小出自治連会長の『暗いニュース一色の昨今ですが、希望の灯がない訳ではありません。私達は中野小屋地区という基盤に立って、地域が地域を支えていく事が大切な事と思います。この集いは形式はありません、各団体が夫々のスタイルで活動状況の報告や苦勞話などからより良い地域づくりのキッカケになる事を期待しています。』との挨拶に始まり「西川を守る会」石田会長の司会で進められました。各団体からは、その団体の紹介、苦勞話、要請事項など数多く出されましたが、中でも笠木小学校の三、四年生は平成二二年から複式学級となる事が報告され出席者の耳目を集めました。学校では児童のマイナスにならない様に万全の方策を講じて行く作業を進めているとの事。又小瀬小学校児童の登下校の安全確保に大きな役割を担っていた国道一六号線に架かる歩道橋は撤去が提案されていたが関係各位の運動の結果、補強工事をした上で存続が決定、児童の安全に大きく寄与しているものと思われま。集いは少子高齢化の報告事項が多く、高齢者だけの世帯、高齢者の一人世帯が増加しており、声かけ運動の必要性、重要性も福祉関係者から提案されました。交通事故は管内では一件の発生だけだったが、国道一六号線の混雑回避のため、集落内の生活道路に入り込む車が多く見られ、注意喚起がありました。犯罪面では軽微な犯罪が増加傾向にあり、戸締り、声かけの重要性、早い通報を心がけてほしいとの事。今回の集い出席者の中から感想が届けられましたので原文のまま紹介します。

『中野小屋地区の各種団体の代表者の皆さんは、組織と地域の事を真剣に考え、この想いが「中野小屋」を支えているのだと感じました。これからの活動と情熱を地域内の皆様に理解してもらい、力を貸してもらえれば、何か新しい変化が起こるかな?』と感懐ありがとうございました。

集いに出席して『一人の小さな手、何もできないけど、それでもみんなの手と手を合わせれば、何かできる。何かできる』(上越地方出身、本田路律子さん、昭和五〇年頃の唄)を思い出した一日でした。



開会の挨拶を述べる
小出自治連会長



司会の石田西川を守る会会長



事務局だより

□三月までの行事予定
二月(三日)月)第一回目すこやか
高年者給食サービス
三月(一日)月)第二回目すこやか高
年者給食サービス

□募集事項
引き続き、この新聞の名前(愛称)
を募集しております。それとこの
新聞の編集スタッフも合わせて募集
いたします。連絡先二六二二二七
三事務局まで。